

2015 SUPER GT
LM-corsa・OTG Race Report
第5戦 鈴鹿サーキット

◆ 8月30日(日) <決勝> 天候:曇り時々小雨 | コース状況:ウェット→ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹・ドミニク・ファーンバツハー
19位



どんよりした雲が空を覆い、時折小雨がぱらつく状況で決勝日は明けた。前夜に降った雨がコースを濡らしたまま、さらに小雨が降って、ウェットの度合いは一層増していく。そんな状況で鈴鹿 1000km は決勝スタートを迎えることになった。その後、レース中盤以降はドライコンディションへと変わりながらも、時折小雨がぱらつき、さらにチェッカー目前にも西コースで雨脚が強くなるなど、タフな展開となった決勝レースとなったが、#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は粘り強いレースを展開。トップから4周遅れとなりながらも19位で完走。長距離ゆえに難しいとされていた1000km レースを走りきることに成功した。

通常のラウンドならば、決勝日の朝には30分間のフリー走行セッションが設けられているのだが、今回はメインレースが1000kmの長丁場とあって、決勝レースがスタートする直前のウォームアップ走行が、通常の8分から20分間延長されているものの、フリー走行セッションは設けられていなかった。そのウォームアップ走行セッションには今回、第3ドライバーとして招聘したドミニク・ファーンバツハーも出走。土曜日の公式練習で10周ほど走っただけの彼にとっては、クルマとコースを習熟する格好の機会となったはずだ。ちなみに、このセッションで彼は、クラス10番手となる2分14秒台で走っている。

決勝レースは午後0時半にスタートした。まずは吉本大樹が最初のステントを担当。31周を走ったところでファーンバツハーに交替し、続いて62周目から106周目まで、1回のピットインを含めて2ステントを飯田章が走行。131周目からチェッカーまでの最後のステントを再びファーンバツハーが走るようになった。コンディションは、完全なウェットで始まり、ライン上から次第に乾いていって、レース中盤には完全なドライに代わったが、その後再び雨がパラついて、終盤には西コースで雨脚が酷くなって部分的にウェットパッチが現れるなど、目まぐるしく変わって行った。また幸いに、致命的なトラブルからは解放されたレースとなったが、それでもいくつかのマイナートラブルに見舞われるなど、とてもタフなレースとなった。それでもドライバーもチームもミスすることなく、完璧な仕事をこなして無事にチェッカーを受けることができたのは大きな収穫だった。

次戦は3週間後の菅生。タフな1000km レースを走りきったことで、チームのモチベーションは高まっている。この勢いで次回は、さらにもう一步上の結果を期待しよう。

ドライバー／飯田 章

「ドライバーだけでなくチームが一丸となって 1000km レースを走りきることができた。今回のレースはそこに尽きると思います。もちろん、狙っているものはまだまだ先、ずっと上の方にあつて今はまだ手が届いていませんが、何とか少しでもそれに近づきたい。そんなレースを続けて行きたいですね。今回、助っ人に来てくれたドミニク(・ファーンバッハー選手)は良いドライバーでしたね。乗り始めてすぐに好いペースで走ることができたとし、ミスも少なく安定したペースで走れる。耐久レースに慣れているのでしょうか。とても力強い助っ人でしたね」



ドライバー／吉本大樹

「結論から言うと、実りのあるレースウィークになりました。実際には細かなトラブルもいくつかあったし、セーフティカーが出た時の対応など、もう少し上を狙えたんじゃないかなと、もったいないことをした、とも思っています。でも難しいと言われてきた 1000km レースを完走したことで頑張ってくれたメカサンたちにも報いることができました。反対に、まだ足りない部分、クルマだけでなく戦略などチームの総合力についても分かったので、次に繋がるレースとなりました。次の菅生では、もっと上のレベルで戦いたいですね」

ドライバー／ドミニク・ファーンバッハー

「まず最初に、LM corsa、OTG、LEXUS にこのような機会を与えていただいた事に感謝致します。また、飯田選手・吉本選手にチームメイトとして歓迎してもらえて光栄です。練習走行時間が短いに関わらず、両選手は私がより早く車やサーキットに順応できるように協力してくれました。私たちのゴールは、シンプルに 1000km を完走することでした。今年できたばかりの RC F GT3 で 1000km を完走することは、非常に難しいことでもありました。この車で一度にこの距離を走ったことはありませんが、私たちは成し遂げました。」

ウェットからドライに変化していく難しいコンディションの中、接触もありましたが チームもドライバーも皆素晴らしい仕事をしました。今回完走できた事で私たちは更に LEXUS RC F GT3 を知ることができ、今後の進化の為に貴重なデータを取ることができました。」



監督／小林敬一

「前回に続いて今回も、幾つかのマイナートラブルには見舞われましたが、それでも大きなトラブルとは無縁で 1000km レースを走りきることができました。もちろん、こんな成績で満足するわけにはいきませんが、それでも 1000km レースを走りきったのは大きな一歩、着実な進歩だと思っています。新しいマシンの開発は、やはり大変なことだと痛感していますが、それでも 1000km を走りきったことで多くのデータを集めることができました。このデータを活かして、強く着実に、そしてより速く走れるクルマに仕上げていきたいと思っています。今回は応援、ありがとうございました」